

森づくり最前線

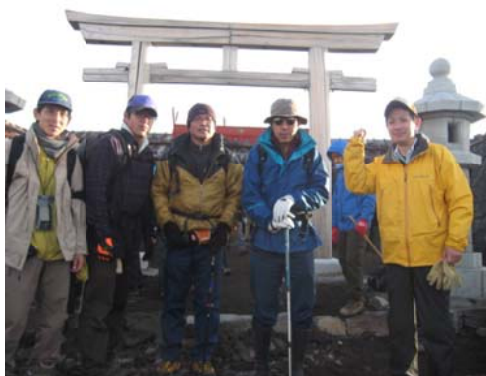
静岡森林管理署 表富士森林事務所 森林官 佐々木貴博



シカ餌付けの様子



システム販売



富士山パトロール

本年4月から静岡森林管理署表富士森林事務所を担当しています。当森林事務所は、隣接する上井出森林事務所と合同森林事務所を構え、森林官2名と基幹作業職員2名で、富士山国有林（富士市と富士宮市）を管理しています。当国有林は、世界文化遺産（候補）の構成資産の一つである富士宮口登山道を有しており、国有林を訪れる方は多く、様々な方に当国有林を見ていただける開かれた国有林を目指しています。

近年の富士山地域の森林で懸念されていることに、シカの増加が挙げられます。当国有林内で、静岡県及び富士宮市等と実施した頭数調査でも50頭/km²（2005年）から130頭/km²（2012年）へと急激に生息密度が増しています。そのような現状を打開するため平成23年度、当国有林内において、富士宮市等と連携し、一時的に餌付けしたシカの群れを車両で移動しライフルで捕獲する「誘因捕獲法」（シャープシューティング）という技法により、6回の実施で73頭の捕獲に成功しました。今年度は、夏季～11月の期間、臨時雇用により、①ワナによる捕獲と、②日の出～早朝、17時～日の入りの時間帯に銃による捕獲を実施しており、連日成果を挙げています。餌が少なくなる12月頃からは前年度実施した誘因捕獲を行う予定です。森林官として着任しましたがシカの問題は国有林だけで解決できるものではなく、県、市、農林業団体、猟友会、ボランティア団体等、富士山地域が一体で取り組まなければ解消できないと痛感しています。

また、当署の先進的な取組事例として平成23年度からウラジロモミのシステム販売を実施しています。材価の低迷もあり、当国有林で約2,000畝あるウラジロモミ林はなかなか手入れがされず、間伐も切り捨てのみという状況でした。しかし、県内の製紙会社とシステム販売契約を結ぶことにより、従来は未利用の0材を3,200円/m³で山元販売しました。

今年度もこのシステム販売を継続しており、放置されがちだったウラジロモミ材の新たな需要開拓により、単年度ではなく複数年にわたり、安定的に供給していきたいと考えています。

当国有林は平成8年の台風被害により750畝という大規模な風倒被害を受けました。その際に、分収造林や協定林といった方式により、総勢約20団体にも及ぶボランティアの方々や企業力を借りて富士山地域の森林の復元に取り組んでいます。被災当初の主作業だった植栽は現在では減少し、下刈りや枝打ちといった保育作業の段階に入っています。やはり前述したようなシカによる害が深刻な状況ではありますが、各団体・企業ともシカにも負けず富士山地域の森林を復元するために活動を続けていただいております。

最後に、着任したときに、当国有林における地形や林況を踏まえたうえで、低コスト林業経営の事例作りを一つの目標に掲げました。もう一つ、繰り返しになりますが、「シカと共存できる環境をいかに作り上げていくか。」これが表富士森林官の命題ではないかと考えております。地元自治体やNPO団体等との協力を密にして、シカと共生できるモデル地区になることを目指し日々邁進して参りたいと思います。